

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200080		
法人名	株式会社 プランドゥ		
事業所名	グループホーム ようざん		
所在地	群馬県高崎市上並榎町1180番地		
自己評価作成日	平成23年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常的な家庭生活を重視、より家庭的な穏やかな生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の敷地内には小規模多機能型施設やデイサービスが併設されているので、緊急時などはお互いに助け合える安心感がある。食事の準備などにはできる人には参加してもらい、料理と一緒に作るなど残されている能力の発揮に結び付けている。地域の必要に応じた支援を行い、地域との協力関係を築いている。防災訓練などに地域住民の参加がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「主権在客」の理念の基、その人らしい暮らしと安寧な生活を支援します。	法人理念「主権在客」をホームの理念としている。過去にはホーム独自の理念を掲示していたが、利用者の意見もあり今は掲示していない。理念は申し送りや月に一度のユニット会議などで話し合い、職員は共有している。	法人の理念とは別に、地域密着型サービスの意義を示した、グループホーム独自の理念の作成をお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で挨拶をしたり、近所から野菜を頂いたりしています。	散歩の時など地域の人と挨拶を交わしたりしている。不動山の祭りなどの案内が来ている。法人主催の秋祭りには地域の人を招いている。傾聴ボランティアの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者その家族様等の悩みなどの相談に応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多数の意見を参考にサービス向上に努めています。	2ヶ月に一度開催されている。全家族に開催の連絡をしている。会議の結果は玄関に掲示している。ホームからは現状報告など行っている。法人全体の家族会を単体施設毎の家族会にはどうかと検討されている。	2回行政の参加が無かった。今後は全会議に行政の参加依頼をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族会に同席して頂き、話し合う機会を持ち参考意見にし、質の向上を目指しています。	管理者は相談等は電話で行っている。ケアマネジャーは代行申請時に行政に出向いて情報交換など行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は職員全体で理解しています。リスクが多い利用者は家族様と相談し取り組んでいます。	法人の方針として玄関には鍵を掛けている。外に出たい人がいる場合は職員と一緒に散歩などしている。家族には施錠についての説明を行っている。	鍵をかける事は身体拘束に含まれるということを認識して、鍵をかけない見守りの支援に向けての検討をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合い周知し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護制度を利用されている方がおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明やホームの環境などを知って頂き不安や疑問等について十分お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の窓口が設置しており、不満や要望に対応しています。	2ヶ月に一度お便りを作成している。法人全体の便りのほかにグループホーム独自の便りを作り、利用者毎の個別の報告をしている。家族会を法人全体ではなく事業所ごとに設立したいという要望が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回 代表者の出席の元でユニット会議を開催しています。	管理者は日常の会話の中で職員から聞き取りを行っている。希望する休日などを考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会の機会を設けたり、独自のテストを行い、給与水準を上げるなどし意欲向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修を受ける機会を設け実行しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会を通じ活動している事例発表会等で同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と相談し使い慣れた物を事前に居室に持ち込み家庭の雰囲気を作り上げるなどし、コミュニケーションして不安を取り除くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时話し合いをしながら対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思いを優先し支援させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、簡単な調理など共に作業し学び支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活や身体状況を密に報告し、ご家族の力を借りて共に支え合う姿勢でいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔に友人や知人の面会時、くつろぎの空間を提供し本人の新たな情報を聞いて再訪をお願いしています。	友人が面会に来たり、家族が入居前の友人を伴って面会に来たりしている。居室にテーブルを設置して飲み物を提供したり、記念の写真など撮っている。法事の参加等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を共有 尊重し日々の生活で楽しみや助け合える雰囲気を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の状況を聞かせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やアセスメントで本人をよく知り 支援出来る事から実行しています。	日常会話の中で言葉で表現できる人からは直接聞いている。家族から情報をもらいながら確認をする場合もある。職員は支援した事項について反応を見ながら推測もして思いの把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの生活歴などの情報を伺い、ホームで出来るサービスの提供に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のリズムやパターンを把握し、安心安楽に生活出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のカンファレンスで意見を出し合い、検討しより良いケアを目指し作成しています。	計画作成時家族に連絡して確認を取っている。家族からの相談など受けている。毎月のモニタリングを基に3ヶ月毎の見直しと随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやケア記録で情報を共有し、家族様に報告や相談をしながら支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況や要望に応じて相談があれば対応できます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、各種の慰問で協力を頂いて気分転換をしています。消防署の協力を得て避難訓練をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時 家族様が医師に適切な医療を受けられるように日々の体調の変化を記録し情報提供しています。	入居時にかかりつけ医か協力病院かの選択が出来る。協力病院からの月に一度の往診と今までのかかりつけ医の往診もある。原則かかりつけ医の受診は家族対応だが出来ない場合は事業所で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録をもとにして看護婦と協力して健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態や家族様の考えも合わせて医療機関との相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と相談しながら事業所で出来る事、出来ない事を説明し変化に備えて準備しています。	グループホーム独自の方針があり家族に説明している。看取りの経験はまだ無いが指針と同意書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受け、急変時にすみやかに対応出来るよう身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難の訓練をし地域の住民の方と連絡、協力をして頂けるようにしています。	年2回法人主催で夜間想定で行っている。地域の人にも連絡し区長が参加している。グループホーム、小規模多機能型事業所では昼想定で行った。地域住民の連絡網が出来ている。備蓄はまだ準備していない。	利用者と職員が避難経路等を身に付けるためにグループホーム独自の訓練の回数を増やしてほしい。また備蓄の検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の情報を元に把握し、人格を尊重した言葉かけをしています。	さりげない声掛けなどで排泄を誘導している。居室の入室時には声を掛けて入っている。個人情報について職員に教育し誓約書を取っている。申し送り時など利用者の名前はイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、声掛けをして今日は入りたくないとの返答に対し無理を押しつけず翌日にて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れをベースにひとりひとり その人に合った対応を実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容を利用したり、外出時に一緒に服を選ぶ対応をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分で摂取出来ない方には職員がメニューの内容を伝えながら介助させて頂き、野菜などの切ったり食後の洗い物、食器拭き等 出来る方にはお手伝いをしています。	利用者は野菜の下ごしらえなど料理に参加している。またテーブル拭きなど職員と行っている。献立は給食職員が利用者の希望を取り入れ考えている。誕生会には祝膳が用意されている。外食もある。職員はお弁当を食べている。	法人としての方針もあるが利用者と職員と一緒に食事をする事が出来るよう検討をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のメニュー及び食事 水分量を記録し栄養が取れるように努力しており、食事も義歯の状態に応じて刻みにしたり身体の状態で摂取出来るものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でハミガキが出来る方にも職員が付き最終的なケアをし、夜間には洗浄液にて義歯のケアをしています。毎週一回に歯科医によるデンタルも受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や個々の排泄パターンで清潔を保持し自立に向け努力しています。	排泄パターン表を用いて排泄誘導を行っている。一人ひとりの誘導と確認を行い、また定時での誘導も行っている。トイレでの排泄に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多い食事の提供や医師の指導で服薬管理しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5回入浴を実施しているので身体状況に合わせて支援しています。	週5日午前中の中の入浴となっている。利用者に毎回声を掛けて入浴の確認を行い支援している。デイサービス利用日にはグループホーム利用者の入浴が制限される場合がある。	デイサービスが併設なので入浴支援に時間をとられることも理解できるが、グループホーム利用者がいつでも入浴できる体制の確保の検討をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の体調に合わせた昼寝やゆったりとした気分で入眠出来るように工夫しています。(寝具の工夫・湯たんぽなど)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状による内服を理解し身体状況を観察し看護師に相談 医師の指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かした役割や楽しみが出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は散歩やドライブなど個別に対応し家族様にも協力をさせて頂いています。	天気の良い時の散歩、ドライブ、花見など外に出る機会を作っている。また家族面会時に家族との外出等、自由に外に出られる雰囲気がある。施設の庭にシートを敷き、お日様の下で昼寝などもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はされていません。必要な時は立替で対応しています。家族様と相談し小額を所持されている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がくれば取次ぎ話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面の飾りを季節の花など工夫し季節感を取り入れています。	共有空間にはテレビ、テーブル、椅子などがあり、心地良い明るさも保っている。季節感のある作品が飾られている。デイサービスのある日は雰囲気が変わり利用者にとっても新しい情報などが聞けて刺激となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビやソファを置き、自由にくつろげる空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人 家族様と相談し必要に応じ馴染みの物品を用意して本人の安心繋げています。	居室には鏡台、写真、カレンダー、籐の椅子など設置され個性的な設えとなっている。壁には作品が飾られ、馴染みのものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの表示し分かり易くしています。		